



岡山大学記者クラブ 御中

令和4年10月28日

岡山大学

「がん患者が、将来、子どもを持つための支援を学ぶ」
がん治療と Quality of Life-小児・AYA 世代の妊孕性温存の重要性-
オンライン (Zoom) 講演会を開催

◆発表のポイント

- ・がんの化学療法や放射線療法により、将来、子どもを持つための能力（妊孕性）が低下してしまふことがあります。そのため、がん治療前に精子や卵子、卵巣などを凍結保存しておく「生殖機能温存・妊孕性温存」が行われています。
- ・岡山県では、2021年度より小児、思春期・若年成人（AYA 世代）のがん患者に対し、妊孕性温存治療費用の一部を助成しています。
- ・2022年12月1日（木）、「がん治療と Quality of Life-小児・AYA 世代の妊孕性温存重要性-」講演会を開催し、医師・看護師・薬剤師・心理士・その他の支援者の方々に現状について知って頂く機会を作りました。

近年、医学の進歩とともに、がんを克服し、その後に子どもを持つことを希望する方々が増えています。しかし、がんの治療である化学療法（抗がん剤治療）や放射線療法を行うと、卵巣や子宮、精巣など、妊娠に必要な臓器がダメージを受け、機能が低下してしまう場合があります。これに対して、卵子・精子・胚（受精卵）の凍結保存や、卵巣自体の凍結保存という生殖医療技術を使い、将来の妊娠の可能性を残すこと（妊孕性温存）が可能になっています。

今回、がんと生殖医療ネットワーク OKAYAMA、岡山大学病院リプロダクションセンターでは、12月1日（木）の夕方から、「がん治療と Quality of Life-小児・AYA 世代の妊孕性温存の重要性-」講演会を開催し、医師・看護師・薬剤師・心理士・その他の支援者の方々にも、岡山県内の妊孕性温存の現状について知って頂く機会を作りました。特に、白血病などの血液疾患の治療をする医師の視点、がん患者を支援する看護師の視点での話を聞くことができます。Zoom を利用した個人視聴での WEB 開催となります。奮ってご参加ください。

種々の妊孕性温存の方法の中には高額な費用が必要なものもあり、経済的理由で実施を躊躇する例も見られます。岡山県では2021年度より、将来子どもを産み育てることを望む小児や、AYA 世代（思春期・若年成人）のがん患者のうち、対象となる例に対して妊孕性温存治療に関わる費用の一部助成を始めています。

今年度も、岡山大学病院リプロダクションセンターでは、岡山県の「妊孕性温存に係る医療従事者研修事業」の一環としても、小児・AYA 世代のがん患者の「妊孕性温存」に関する基本的な知識や県の助成制度を知って頂くため、県内のがん診療拠点病院6病院にて順次、研修会を開催していく予定です。



PRESS RELEASE

資料

- ・「がん治療と Quality of Life-小児・AYA 世代の妊孕性温存重要性-」講演会チラシ
- ・「将来、子どもを持つことについて知りたい方とその家族へ - がん治療の前に知っておきたい 生殖機能温存・妊孕性温存治療のこと」パンフレット
- ・「将来、子どもを持つことについて知りたい方とその家族へ - がん治療の前に知っておきたい 精子凍結保存のこと」パンフレット
- ・「これから治療を受けるあなたへ 男子編」パンフレット
- ・「これから治療を受けるあなたへ 女子編」パンフレット

◆研究者からのひとこと

岡山大学病院リプロダクションセンターでは、がん患者の妊孕性温存治療を行うとともに、この治療を広く知っていただくための活動をしています。

「がんと生殖医療ネットワーク OKAYAMA」代表
岡山大学病院リプロダクションセンター センター長
岡山県不妊専門相談センター センター長

中塚 幹也



<お問い合わせ先>

岡山大学学術研究院保健学域 中塚研究室
岡山大学病院リプロダクションセンター
教授 中塚 幹也
(電話番号・FAX) 086-235-6538



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。